

# 全国協議会 ニュース

2021年3月1日発行 第343号

発行所：特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KTビル3階  
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365  
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）  
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

## 骨髄バンクの移植 25,000 例 ～コロナ禍の困難乗り越え到達～

2020年12月末現在、日本骨髄バンクでの移植数が25,039例（うち、末梢血幹細胞移植は1,104例）となりました。一方、さい帯血バンクの移植数も19,737例となり、併せて約45,000例となっています。骨髄バンクの移植は1993年1月に第1例が行われてから、毎年、着実に移植数を伸ばし続け、28年目を迎えての到達です。移植医療機関、骨髄バンク事業に携わる皆さまの多年にわたるご尽力に対し、心からの感謝と敬意を表します。そして、何よりもドナーさん、ご家族、職場の方々のご理解と献身に、厚く御礼申し上げます。

### 患者救命と骨髄バンク発足

白血病や再生不良性貧血などの重症血液疾患の患者さんを救命する根治療法として、骨髄移植療法が日本でも1980年代に確立されました。血縁者にドナーを見いだせない患者さんを救おうと、全国各地で患者家族と支援ボランティアによる骨髄バンク設立運動が行われ、社会的な関心が高まりました。そうした要望に応じて、国は1991年12月に公的骨髄バンク「骨髄移植推進財団（現：日本骨髄バンク）」を設立し、ドナー登録者の募集と移植に至るまでの患者・ドナー間のコーディネートを開始しました。

### 骨髄バンクの移植累計数

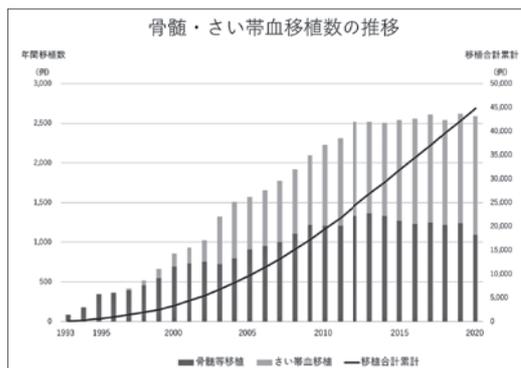
1993年1月に初の移植が行われてから、ドナー登録者数増大及びコーディネート体制充実に比例する形で、毎年着実に移植件数は増加を続けています。累計では、1997年1月1,000例、2008年12月10,000例、2016年10月20,000例に到達しています。2007年からは、毎年1,000例を超え、その後は毎年1,200～1,300例程度で推移していましたが、2020年は、コロナ禍のため前年より151件減少し1,092例となりました。

### 造血幹細胞移植法の進歩

1990年代後半に入ると、骨髄移植術に加えてさい帯血移植術が確立されました。「さい帯血バンク」も設立され2000年代にはさい帯血移植数は急速に増加し、2015年からは骨髄バンクをしのぐ実績となっています。また、1990年代に、末梢血幹細胞移植術が開発され、血縁者間移植では骨髄移植件数より多くなりました。骨髄バンクでも2010年10月から導入されています。さらに2010年代に入ると、HLA半合致移植術（ハプロ移植）も血縁者間で始まりました。

### 災害と骨髄バンク

毎年各地で台風や強風雨（雪）、地震等による自然災害に見舞われています。特に1995年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災などの大災害発生時には医療機関や骨髄バンクも様々な困難に見舞われましたが、患者さんを救



命するために全力をあげて努力を続け、こうした事態を乗り越えてきました。

### コロナ感染症の影響

昨年、全国的にコロナ禍に見舞われ、どこの医療機関も感染症対策などに大変困難な状況となりました。政府の緊急事態宣言発令などにより、特に3月から6月にかけては、骨髄バンクのコーディネートを延期・中止せざるを得なくなる状況もありました。

しかし、血液がんは病状進行が速いことから、治療を中断することはできません。患者さんを救命する骨髄移植を行うために主治医（移植医療機関）と骨髄バンクでは、様々な対応が検討され移植が実施されました。

#### コロナ禍の対応

- 移植方法の変更：骨髄移植のバックアップとして、さい帯血移植・ハプロ移植を検討。
- さい帯血バンクの移植数 2019年1,379例 → 2020年1,496例（117件増）
- 血縁間ハプロ移植は増加（例数は調査中）
- 事前凍結の許可：移植病院での事前凍結を緊急避難措置として許可し、移植患者の術前処置は、ドナーからの骨髄採取（末梢血幹細胞を含む）完了後に開始した。
- 2020年4月～12月、150件を超える申請を許可
- 最終同意にリモート面談を一部試行

全国のボランティアの皆さまの日々のドナー登録推進活動の賜物と感謝申し上げます。これからも患者さんを一人でも多く救うために全国協議会も皆さまと共に活動してまいります。

#### 骨髄バンクの最新情報をお知らせする

### 骨髄バンク NOW

〈MONTHLY JMDP(2月15日発行)より抜粋〉

#### ■日本骨髄バンクの現状(2021年1月末現在)

	12月	1月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,734	2,712	529,708	850,085
患者登録者数	209	196	1,862	61,027
移植例数	93 (28)	81 (18)	—	25,120 (1,168)

※( )内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

#### ■1月の区別別ドナー登録者数

献血ルーム／691人、献血併行型集団登録会／1,968人、集団登録会／0人、その他／53人

#### ■1月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 2,879人／20代 83,380人／30代 137,184人  
40代 223,136人／50代 83,129人

#### ■1月の20歳未満の登録者 325人

#### ■1月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：1,122件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

## 日本骨髄バンク説明員研修会 WEB 開催

2月2日(火)と2月13日(土)に日本骨髄バンク2020年度地区普及広報委員・説明員研修会が開催されました。コロナ禍の為WEB(YouTube)上で開催され、当日参加できない方も後日YouTubeでの視聴ができる事で参加しやすい環境でした。

### 地区普及広報委員・説明員研修会に参加して

2月2日(火)にWEBで開催された2020年度地区普及広報委員・説明員研修会を受講しました。

コロナウイルス感染予防のため、初のオンライン研修会となり、移動時間なく自宅で受講できて対面とはちがう雰囲気での研修会でした。

研修内容では、提供ドナーに選ばれるのは20代、30代が6割以上との説明に、若年層への普及啓発の必要性を強く感じました。現在コロナ禍のため、今年度千葉県では大学での登録会がなく残念な思いをしています。各種イベントや普及啓発活動もありません

でしたので、収束後の普及啓発、登録会を行いたいと思いました。

また、滋賀骨髄献血の和を広げる会のコロナ禍での登録会開催についてのお話をお聞きして、共通する事柄を確認する事ができました。各地で工夫されながら活動されている様子を聞く事ができるのも研修会の大きな意義だと思います。

そして、ドナー登録後25年目にして提供ドナーとなった体験に感動しました。コロナの影響でコーディネート日数が通常より長く、採取当日も面会禁止の中で提供ドナーとして患者さんの生命を救った事に感心しました。

(千葉骨髄バンク推進連絡会  
北村美和子)

## 病室内のWi-Fi(無線LAN)整備を今! 情報は患者のライフライン、わがままじゃないです



筈井信輔(かさい しんすけ)  
1963年生まれ  
早稲田大学商学部卒業  
1987年フジテレビ入社  
2019年10月よりフリー  
2019年12月「悪性リンパ腫」  
を公表  
4か月半治療の結果「完全寛解」  
となる

コロナ渦がいつまで続くかわからない不安な日々。たくさん入院患者さんが、病室内でWi-Fiに接続できないのをご存知でしたか?

皆さん、想像してみてください。誰もお見舞いに来られない長期入院生活を。コロナの時代になって私は3か月間それを体験しました。病気をさらに悪くすると思えるほどの孤独です。その中で、病室から時間限定で、有線につながったSNSに救われました。病院に来られない知人や家族とメッセージを交わし、顔を見ながら会話ができただけ心の安定が得られたか。YouTubeの動画で、どれだけ笑って免疫力が上がったか。

もし、入院病棟に患者用のネット環境がなかったらと考えるだけでも恐ろ

しくなります。そうした病院が全国にたくさんあるんです。でも、有線では、時間に限りがあり、患者の負担も増えます。コロナ時代の今こそ、「病室にWi-Fiを!」

入院患者には自由にネットで繋がる絆が必要です。是非、おねがいします。

「#病室WiFi協議会」を広めています。  
(全国協議会顧問 大谷貴子)

病室にWi-Fiを!と有志で「#病室WiFi協議会」を立ち上げました。「病院に」でもなく、「病棟に」でもなく、「病室に」Wi-Fiを、です。

きっかけは、一昨年の4月に全国協議会でクラウドファンディングを立ち上げたときの事です。実は、その前後に私の入院加療が決まっていた、クラウドファンディングを立ち上げるとパソコンから離れられないと聞いていたので、立ち上げの記者会見の翌日から入院をすることにしました。

病院は無料Wi-Fiの整備は当然のことだと思い、何の疑問も持たずに入

院しました。病室では加療中にもかかわらず、クラウドファンディングに立ち向かっていました。

しかし、検査のために違う部屋に行くにつながらなくなることに気づきました。聞いてみると一部の有料個室のみへのサービスだったのです。その夏に隣の病院へ転院。ちなみに東京都内で、両病院は隣どうしです。しかし、今度は、まったく、Wi-Fiが繋がらなかったのです。

その後、家族や親戚、友人が様々な病院に入院するたびに調べて行くと、有料個室でもつながらないところ、無料の大部屋でもつなげるところ、全館つなげるところ、全くつながらないところか携帯所持も禁じられているところ、と、病院によって差があることがわかってきました。

そして、このコロナ禍。面会もお見舞いも許されなくなった日々の中、外の世界とつながることができなくなった患者さんはどうされているのだろうか、入院してもオンラインで仕事ができると思っていた方はどうされているのだろうか、小児科の子どもたちはパパやママの顔が見えなくなってどんなに心細いだろう、血液疾患患者さんは、長期入院を余儀なくされるので、どうしておられるのだろうか…。聴覚障害の方は手話通訳を介して医療者とコミュニケーションを取られます。しかし、コロナ禍では、患者さんではない手話通訳者は病院に入ることはできません。そこで、遠隔手話通訳という手法が用いられるのですが、院内にいる患者さん側にWi-Fiが通じていないと全く話になりません。

これらの心配ごとを、昨年10月14日、オンライン講演で話し、視聴して下さった方の中から、ITの専門家をご紹介いただき、相談を始めたところから、どんどん人の輪が広がり、そして、#病室WiFi協議会を立ち上げました。

今や病室にWi-Fi設備が完備されていないことは、ライフラインを断たれることと等しいと考えています。長期入院患者さんに、自宅と同じような環境で世界とつながる日々が早く訪れますように。

## ブロックセミナー開催

全国協議会では地域ごとに「ブロックセミナー」を開催し、全国各地でボランティア活動を行っているグループに呼びかけ、全国協議会に加盟していない団体・個人の方にも参加していただいています。

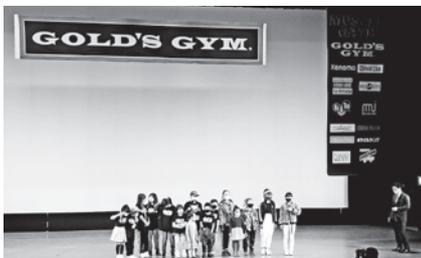
今年度最初のブロックセミナーは2月23日(火)に北海道地区、東北地区合同で開催されました。

コロナ禍で集まることができず、ZOOMを利用したWEB会議となり、北海道、山形県、秋田県から12人の参加がありました。菅早苗理事から全国協議会の役員改選に関し推薦・立候補の要請、ドナー登録時のスワブ検査法導入の進捗状況、がん患者さんの妊孕性温存費用の国の助成についての説明がありました。

その後、保健所主導の登録会や登録説明員養成の状況など、各地区での活動が報告されました。また、地元に取り病院が無いところでは、登録の際に「提供の際には日帰りが難しい病院に何度も行く必要があること」などの念押しが必要である一方、就学や転勤で提供しやすい地域に移る可能性もあることから登録を推進することは重要なこと、など、患者さん救済の思いを胸に交流されていました。

コロナ禍での活動の難しさがある中、各地での取り組みがとても参考になるとの参加者の声がありました。

## ゴールドジム 関東スクール発表会



全国でスポーツクラブを展開するゴールドジムの関東スクール発表会2021が開催され、今年もご寄付をいただきました。当日の様子をお寄せくださいましたのでご紹介いたします。

2月21日(日)に品川区立総合区民会館さゆりあにて「フィットネス

フェスタ ゴールドジムスクール発表会2021」を開催させていただきました。

同イベントは日頃ゴールドジムでスクールを開催している皆様の発表会というイベントになり、ご参加、ご観覧いただく皆様に募金のご協力を頂き、全額を募金させて頂くというチャリティーイベントとなります。

今回の参加は12チーム、135名、ご来場者様は221名と例年に比べると少ない状況でしたが、各スクールの方々は真剣に熱のこもった演技をされておりました。今年度初参加の団体様もあり、会を楽しまれていた方々も多くございました。

このような社会情勢でありますので、感染症対策にも注力し、会場内はマスクの着用は必須、演技中もマスクを着用して頂く等、皆様にご協力頂く中でのイベント開催となりましたが、日頃の練習の成果を披露する機会をご提供でき、開催が出来てよかったですと感じております。

今後も皆様へ日頃の練習の成果を発表する場を設けさせて頂く事、チャリティーイベントを開催させて頂くことで社会貢献をして参ります。

(株式会社 THINK フィットネス  
ゴールドジム事業部  
ゴールドジム銀座東京店 米持)

## 壁新聞から始まった 情報発信と患児家族の交流



2004年9月に、当時2歳11か月の次男が白血病と診断されました。私は24時間付き添い生活。何かしていないと、悪いことばかりが頭に浮かんできます。そこで私は、壁新聞を作り始めました。

毎朝、小児病棟の掲示板に壁新聞を貼ると、お母さん方が足を止め、くすっと笑ったり、時には涙ぐんだり。壁新聞を通じて患児家族の交流が広がっていきました。仲間の存在は大き

な支えとなり、入院中は励まし合いながら過ごすことができました。しかし、退院後はその仲間がそばにいません。今のようにSNSは普及していませんでしたので、孤独な環境に置かれることになりました。

そこで私は、次男が退院して間もなく、WEBサイト「輝く子どもたち」を開設し、交流の場をインターネット上につくりました。15年に渡り、息子の闘病記や小児がんに関する情報を発信しています。

また、小児がん患児家族が自由に利用できるコミュニティサイトやお子さんを亡くされた家族のコミュニティサイトを開設したり、小児血液・固形腫瘍患者家族の会「つながる輪」を設立したりして、同じ立場の方が交流できる場をつくってきました。

悩みを相談できる場所を守り、患児家族が必要とする情報を届けながら、ご縁を繋いでいきたいと思っております。

(山崎仁美)

## クレジットカード決済 システム導入のお知らせ

全国協議会ではこの度クレジットカードによる独自の決済システムを導入しました。従来の協議会へのクレジットによる寄付は第三者契約の決済システム経由でしか行えず、通常は振込による入金という手段しかありませんでしたが、いつでもどなたでも全国協議会のホームページからクレジットカードで決済をすることができるようになりました。

(手順)

トップページ→ご支援→一般の皆様へご支援のお願い→活動支援のご寄付「こちらから」→クレジットカード決済ページでお客様情報入力

今まで金融機関まで足をお運び頂かなければなりませんでした。パソコンからも決済できるようになりましたので、是非ご利用下さい。現在は一般の寄付だけが対象ですが、この先賛助会費などもクレジットカードで決済できるようにする予定です。実現しましたらまた会報でお知らせいたします。ご支援のほどよろしく願いいたします。



愛知

### コロナ禍での講演活動



1月22日(金)、東海学園大学教育学部教育学科養護教諭専攻2年生の学生さんに向けて骨髄バンク、ドナー登録などについてお話してきました。この活動は今年で3回目となります。愛知県赤十字血液センターが開催する若年層向けの献血セミナーに同行する形で始まったこの講演活動、大学からは、献血・骨髄バンク両者の話が聞きたいとお申し出から毎年お邪魔させていただいています。当日は患者さんにもご同行いただきました。

前半は血液センターから輸血用血液製剤の安全対策などについても詳しく説明、学生さんたちは真剣に聞いてもらっていました。というのも、養護教諭専攻の学生さんのほとんどが献血経験者です。名古屋市内の献血ルームに定期的に通い、積極的に献血にもご協力いただいています。

後半は私から骨髄バンク・造血幹細胞移植について、現在40代、30代の登録者数が多いことから若年層の登録の必要性もお話しました。また、養護教諭を目指す学生さんということで学校に通う患児だけではなく兄弟姉妹のケアも心掛けていただけるようお願いしてきました。続いて、患者さんから発症から2回の移植を経て現在に至るまでの経緯、闘病の大変さについてお話しいただきました。ご自身はご兄弟からの移植で骨髄バンクドナーを検索する必要がなかったことがどんなにラッキーなことで、今もたくさんの患者さんがドナーさんを探しているのだということを学生さんに伝えてい

らっしゃいました。また、輸血に関して、輸血後にGVHDやウイルスに患者が感染しないように対策や処理作業を経て、安全安心な血液が自分の元に来ていたのかと思うと患者として感慨深かったとも話されていました。

コロナ禍で今までとは違った環境で少々緊張しましたが無事終わることが出来ました。関係各所の皆様に感謝いたします。また、先生から嬉しいニュースも届きました。1回目の講演を聴いて下さった学生さんが登録、その後ドナーとして選定されたとのこと。日々の活動の積み重ねの必要性を改めて実感できた一日でした。

(あいち骨髄バンクを支援する会 水谷久美)

千葉

### 私とケア帽子との係わり



2010年6月東京有明医療大学にて、全国骨髄バンク推進連絡協議会設立20周年記念大会が開催されました。イベントの一つとして血液疾患の治療で避けて通れない副作用の一つ、脱毛した患者さんの為のタオルで作るケア帽子の講習会もありました。この講習会での講師が私の「ケア帽子作り」のスタートとなりました。

協議会がネットで受講者を募集してくれたので、いろいろな事情を抱えた

方々が多数受講してくださいました。闘病中のご主人の為、これから治療に入る自身の為、友人の為など。フェイスタオル一本で作れますので、好きな柄で何個も用意でき、洗濯も簡単、治療が終わればまた元のヘアを取り戻せますので、その間使っていただけると良いのではと思います。

今ではクリスマスプレゼントとして病院に贈らせていただいております。作ってくださる方も赤十字奉仕団をはじめ沢山の方々に参加頂いております。必要なタオルはタオル問屋の株式会社日東タオルさん、ライオンズクラブさんなど沢山の方々からご支援をいただいています。また、無地のタオルは少し寂しいので「ホトリボンアートの会」がアプリケを提供してくださいます。このように沢山の団体、個人の方々のご支援の下、昨年もクリスマスプレゼントすることができました。

(千葉骨髄バンク推進連絡会 西島一恵)

### 基金給付を受けた方からのメッセージ

#### 佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金

この度は、本当にありがとうございました。昨年8月より働けず、経済的に苦しい中に、このような制度があり大変助けられました。退院後も通院費がこんなにかかるなんて思いもせず困窮しております。まだまだ社会復帰まで時間がかかりそうですが、みな様のご好意を無にしないようがんばる所存であります。本当にありがとうございました。

(九州地方在住 患者さんご本人)

### 心からのご寄付に感謝申し上げます ● 1月21日～2月20日(敬称略)

●一般	●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金	株式会社マルト商事
郷 恵実 現金 10,000円	梅原 保 現金 20,000円	現金 70,876円
藤波 敬子 現金 10,000円	ミヨン テルノリ	Photo Studio Any
ダブルエステイガー	現金 5,400円	現金 12,924円
塩谷 泰人 現金 30,000円	●志村大輔患者支援基金	●つながる募金
マスエ 現金 2,000円	津田 敦子 現金 3,000円	現金 14,700円
切手 942円	●募金箱	●キモチと。
匿名 現金 3,000円	株式会社クスリのアオキ	現金 5,395円
匿名 現金 10,000円	現金 1,012,495円	●どりサボ
	菓嶋クリニック 現金 2,967円	現金 124,000円

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会